

白山山行記録



目的地	白山（尾根線～山頂ピストン）	期 日	平成 17 年 3 月 6 日（日）
山行人	笠原正雄単独	特 記	絶好の春山日和、

地 点 名	(着)～(発)	天候	記 事
与 板	午前 7:50 発	晴	昨夜からの冷え込みで霧の道を行く。村松に入り蛭野に向かう農道を進むと正面に菅名岳が大きく見える。その右の白山へ向かう。
茶 屋 前 P	9:15 着	〃	雪で限られたスペースは満車。雪があったがどうにか1台分あり。後続車は駐車場所確保に苦労していた。腹の具合が思わしくなくトイレ2回。
〃	9:45 発	〃	杉並木も雪があった。4駆のRV車が2台寺の駐車場まで進入していた。
登山口 1 合目	10:00	〃	ここからの登りは結構辛い。すぐさま汗がにじむ。途中年配夫婦が下りて来た。3合目まで行ったがカンジキを持たずに来て皆のラッセルに加わることが出来ず、申し訳なくて下りて来たと言う。なんと律儀な人だ。
h 462 杉林広場	10:30	〃	尾根に上がり、平坦な道から緩やかな登りがしばらく続く。雪の道は一車線ならぬ一人線だ。先行者のおかげでヌガルことは無い。
休 み	10:50～1100	〃	大きな松の木のそばで雪に腰掛けて休む。数人が追い越していく。
5 合目あたり		〃	一人男性が降りてきた。7合目まで行ったがラッセルで疲れはてて、戻って来たと言っていた。アリガタヤ・アリガタヤ。 さして大きくないけれども雪庇ができています。ピークも望める
7 合 目	11:30	〃	唯一合目標識が現れた。ほかはことごとく雪の下であった。ツェルトを張って昼食の集団がいた。傾斜も増し、たびたびストックの中ほどを握る。
稜線に上がる	12:00	〃	急登を終わりここに出る。傾斜は緩むが疲れが出てここからが辛く感じた。更に小屋が見えてからが特に長く感じた。
山 頂	12:25	〃	積雪 3m 位だろうか祠も山頂看板も埋もれていて一面雪の原。天気も良く風も少ない。雪に腰を下ろしている集団や、浅い雪洞で昼食の同年代夫婦もいた。残念ながら栗ヶ岳のピークはガスがかかっている見えない。
山 頂 小 屋	12:30～1:55	〃	2階からの入室で、鎖をくぐらなければならない。無理な体勢を強いられた時、脚がひきつった。1階に降りて陣取る。10人程居た。更に脚のひきつりが続いた。ウイスキー・焼もち・アンパン・コーヒー。 ワカンを着けて下山する。新雪をけちらして下りてみた。再度脚がつってくる。これがなければもっと快適なのだが、脚力の限界だ。
h 462 杉林広場	3:00	〃	上山時歩いた道の脇にもう一本ワカンでのトレースが出来ていて、そこを下る。この広場あたりでワカンをはずす。ここからの急降下がアイゼンを持って来なかったのが、滑り易い。2度転んで2～3m流された。
茶 屋 前 P	3:50	〃	寺付近で田村線途中断念の夫婦が下山してきた。今日は田村線トレース無しとのことだ。

前の晩飲み会だった、天気予報は久しぶりの一日中晴れ。これを逃す手は無い、しかし体調万全とはいかなかった。昨秋にこの山を登った、そのとき尾根が明瞭で雪の時期、俺でも入山可能と思った。駐車場は満車だったが山は丁度良い位の登山者数だった。新雪が 30～40 cm ほど積もっていて、先行者がラッセルをしてくれたお陰で頂上まで行くことが出来た。下山開始時は気温も下がって、オーバークロップをしなかったため指先が冷たくて仕方が無かった。脚の引きつりには閉口した。翌日と翌々日の大腿直筋の疲労痛は無雪期とは少し異なる感じがした。そして、強烈であった。快復におよそ 4 日かかった。

